

認定こども園せんだい幼稚園 園長 田原 慎也

見えないものを見ようとする

あらためて新型コロナウイルス(オミクロン株)の感染力の強さを感じる日々が続いています。新年度早々、学級閉鎖や自宅待機などへのご協力ありがとうございます。園はリアルな人と人とのふれあいによって、子どもたちが考えたり、表現したり、協力したりといった成長を促していくための場所です。いわゆる濃厚接触の場ではありますが、乳幼児期における人とのふれあいは育ちにとって大事な価値です。10歳未満の子の感染者が連日続いており、やむなくお休みにせざるを得ないことも今後も生じるかと思えます。保健所や関係機関とも連携を取りながら、自分たちの役割である保育を丁寧に続けていきたいと思えます。(マスクを付けられない年齢の子と接触するため、保育者や職員も常に感染リスクと隣り合わせの中で業務に臨んでいます。職員自身の子どもの学級閉鎖などもあり、日頃より少ない人数での対応が続いています。新年度ながら至らない点など多々あるかもしれませんが、ご不明な点・お困りのことなどありましたら、ご遠慮なくご連絡・ご相談ください。)

今さらながら、冬季オリンピックの話題。女子の日本代表が銀メダルを獲得したカーリングでは、視聴者が試合中の戦術に触れたり、競技への理解を浸透させたりすることができるよう選手たちがマイクを付けて競技が行われています。

会話がすべて丸聞こえになるため、むしろ競技の妨げになることはないのかなと感じるのですが、選手は特に問題ないと考えているとのこと。むしろ、「時には感情に負けてしまうこと(大事なショットがうまくいかないときに暴言を吐きたくなること)もあるけど、マイクをつけていることで目指すべき人間であろうということを思い起こさせてくれる」「マイクを付けて競技に臨むことは自分たちの人間的魅力を伝えられる、カーリングにおける最も素晴らしい要素」と考えているそうです。

「素敵な考えだな」と思いながら、園に置き換えて考えてみると、特に今は参観などを積極的には行えないので、日頃の保育の様子を保護者の方がうかがい知ることが難しい状況です。見えていないからこそ、自分たちが望ましい振る舞いができているか、丁寧に子どもたちに接することができているか、自らで律していくことがまさに大事だと感じています。見えないものへの不安が拭えないのも事実ですが、同じように自分の目では見えていない自分自身の姿を意識することも大事にしていきたいと思えます。(園の様子をできるだけ感じて頂けるようホームページにも不定期で記録を掲載しています。ぜひ、ご覧になってみてください。)

